

中山間地域における住民の生活環境に関する調査の分析

令和 2 年 2 月 細畑 愛哉

要旨

目的

現在の日本では、中山間地域の過疎化は著しく、その地域における集落機能や社会的活動の低下を招いている。このような現状の中では、地域コミュニティの活性化及び生活環境の向上は益々重要なものとなる。これらを踏まえて、本研究では、長野県北安曇郡小谷村を対象に、住民の生活環境に関する調査を基に、生活環境の向上に資する施策を把握することを目的として統計的な分析を行った。

方法

長野県北安曇郡小谷村を対象地域として、小谷村が平成 28 年に実施したアンケート「小谷村で安心して住み続けるための生活ニーズ調査」を基に分析を行った。まず、アンケート結果から単純集計、クロス集計を行い、回答者属性の特徴を把握した。次に、数量化理論Ⅱ類による分析を行い、暮らしの満足度に大きな影響を与えている項目を分析した。この結果より、生活環境の改善に向けた施策を検討した。

結論

アンケートの単純集計から、回答者属性、住民の生活環境に関する評価を把握した結果、小谷村の 7 割以上の住民は、村に住み続けることに肯定的であることがわかった。また、クロス集計により、小谷村に住み続けたいと考えている住民ほど、日々の暮らしに満足している傾向が見られた。そして、暮らしの満足度とご近所づきあいの状況、気軽に集える機会の有無といった人間関係の充実度の間に関連性が窺えた。また、単純集計及びクロス集計から、小谷村の買い物、通院行動における村外地域への大きな依存傾向が見られた。

数量化理論Ⅱ類による分析結果から、社会関係資本（ソーシャルキャピタル）及び買い物行動が、暮らしの満足度に対して大きな影響力を持っていることがわかった。これらの観点から、小谷村での暮らしの満足度に対する効果的な施策を探ることができた。

指導教員 藤居 良夫 准教授